opusdei.org

属人区長の書簡 (2010年11月)

オプス・デイの属人区長は、 今月の書簡で、天国と煉獄と 地上の教会の交わりを強める ことを通して聖徒の交わりの 教えを深めるよう招きます。

2010/11/06

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

今日、私たちは天国で神の喜びを味 わっている幸いな人たちを思い起こ

して忠実に主に仕え、今は天国で仲介役を務めつつ私たちを見守っているオプス・デイの数多くの人々に対して感謝の心で一杯です。ことなられたりに留めることない出だけに留めることならが、この上もなく素晴らといいないが、ならとの固い一致のうちに彼らの助けを頼りにしなければなりません。

また、両親や兄弟姉妹、親戚や友 人、同僚など、私たちを導いてくれ た人々や、私たちと親交のあった 人々を限りない愛をこめて思い起こ さずにはおれません。さらに、聖徒 の交わりを通して、この世で個人的 な戦いや祈りで助けあい、三位一体 を仰ぎ見るゴールに達した見ず知ら ずの数限りない人たちをも思い起こ します。創立者がなさっておられた ことを思い浮かべて皆さんに勧めま す。皆さんの先祖のすべての人たち に取次ぎを願い、彼らを頼りにして ください。

天国の永遠の住みかに入るときを 待っている、愛すべき数限りない人 たちのことも忘れるわけにはいきません。〈清めの教会〉である煉獄 で、栄光に入る準備をしている祝された霊魂たちです。聖ホセマリアは こう話されたことがありました。

「既に、幸福な場所にいます。神のみ前に出るためには、あと少し清めが必要だとしても、救霊は確実なのですから。」[ii] 教会もまたこの人たちのことを思い出し、明日11月2日には、特別に煉獄の霊魂を記念し、すべての司祭に死者のための聖体のいけにえを捧げることを義務付けています。

今月は、聖徒の交わりを深める絶好の機会です。私たちの祈りと犠牲、仕事を捧げることで、そして何よりも、ミサ聖祭の実りを煉獄の霊魂に捧げることで、彼らの償いを助け、天国に行くよう助けることができます。創立者がいつも、しかし11月に

は特別に、煉獄の霊魂のために祈る と同時に、祈るよう励ましておられ た、絶えざる信心を思い出さずには おられません。創立者は、亡くなっ た人々のための祈りを惜しみない心 で捧げるよう促していました。創立 者の大きな野心は、数多くのミサ聖 祭と私たちの惜しみない犠牲と祈り で〈煉獄を空っぽにする〉ことでし た。ですから、私も自らに問い、ま た皆さんに尋ねます。どのように亡 くなった人たちを愛し、また生きて いる人たちを愛していますか。自分 の時間や一日をどのぐらい人々のた めに使っていますか。

このように考察を深めるなら、今私 たちが属している〈戦う教会〉の神 秘をより深く理解するために役立つ ことでしょう。私たちは、キリスト の救いに招かれた者として単に受身 的に教会に属しているのではなく 能動的に教会を形作っているの す。私たちは皆が教会であり、また

第二バチカン公会議は、聖書を引用して次のように説明しています。自ます。自身をはいる。主自の建物と呼ばれる。主はのまたが隅の親石となったが隅の親石となったが隅の親石となったの土台の上に建てられ、この土台の上に建てられ、この土台の上に建力を受ける。」にで、聖ペトロは第一の手紙でます。トについてこう説明しています。

「主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとっては選ばれた、尊い、生きた石なのです。あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となって中に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。」[v]

これは洗礼によって実現しました。 洗礼によって私たちは地上にて私たちは地上にて私たちは地上にて 神の家を築く生きた一員として「vi]。「本組み入れたのです」と自っているということ充分会しているというでは充分会しているというが教っているといったもりまなかではなります。」「vii」がよってもいいないないとの全面的ない。また後に永遠の中で生きるため、また後に永遠の 至福に与るための不可欠な条件で す。

私たちは命のない部品ではなく、 〈生きた石〉なのです。ですからキ リストの贖いの恵みが自分自身と 人々にもたらされるよう進んで自由 に協力しなければなりません。異邦 人の使徒が忠告しています。「私 は、神からいただいた恵みによっ て、熟練した建築家のように土台を 据えました。そして、他の人がその 上に家を建てています。ただ、おの おの、どのように建てるかに注意す べきです。イエス・キリストという 既に据えられている土台を無視し て、だれもほかの十台を据えること はできません。この土台の上に、だ れかが金、銀、宝石、木、草、わら で家を建てる場合、おのおのの什事 は明るみに出されます。かの日にそ れは明らかにされるのです。なぜな ら、かの日が火と共に現れ、その火 はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。」[viii]

ですから、私たちは自分の全存在の 土台を唯一のキリストに据えましょ う。そして、神に惜しみない心です べてを献げ尽くすという金、犠牲と 償いという銀、たとえ小さくても、 間断なくもたらされる恩恵に応えて 磨くことによって神をお喜ばせする ことができる諸徳という宝石で、教 会を造り上げましょう。主の御助け を受けて、大罪だけではなく、意識 的に犯す小罪や欠点や不注意を避け るようにしましょう。天国に入るた めには役に立たない〈干草や藁〉な どのような実のないものを神にお捧 げすることはできません。この点 に、地上の歩みにおいて償いの持つ 役割と、死後の煉獄において清めが 必要であることの理由があります。

聖パウロはさらにこう語っています。「あなたがたは、自分が神の神

殿であり、神の霊が自分たちの内に 住んでいることを知らないのです か。」[ix] 11月の典礼では、9日にラ テラン教会献堂、18日には聖ペトロ と聖パウロの各教会献堂を記念して 祝いますが、このことが強調されま す。この祝日の象徴的な意味を考察 し、自分の行動規範となる結論を引 き出しましょう。献堂ミサの叙唱の 一つは、父なる神に向かってこう祈 ります。「あなたは目に見える聖堂 をつくるよろこびをお与えになりま した。あなたは、地上を旅するわた したちに、この聖堂で多くのめぐみ を与え、この聖堂を、あなたがわた したちとともにおられる神秘のしる しの場所としてくださいます。あな たはわたしたちを生きた神殿とし、 世界に広がる教会を御子キリストの 神秘的なからだとして、教会が、天 の聖なる都、エルサレムの幸福な平 和のうちに完成されるよう、成長さ せてくださいます。| [x]

この偉大な現実をじっくりと考える ことにしましょう。私たちは皆、各 自固有の役目を持っているとして も、同じように教会の成員なので す。ベネディクト十六世はこう述べ ておられます。「教会のすべての要 素はそれぞれが重要な存在です。し かし、キリストという親石を失うな らば、すべては中身を失い、倒れて しまうでしょう。この〈神の家〉に 住む〈住民〉として、キリスト信者 はみな、この家を堅固に維持すると いう共通目的のもとに行動しなけれ ばなりません。そうして、他の人た ちも中に入りたいという気にさせ、 教会に満ち溢れている恩恵を見出さ せるようにするのです。| [xi]

子どもたちよ、主が私たちに託されたこの仕事について黙想し、責任をもって果たしましょう。主人が帰ったとき、預かったお金を増やして返したあのたとえ話しの召使のように振る舞うことです[xii]。信仰と秘

跡、ローマ教皇と司教団との交わりという絆によってキリストとの一致のうちに留まるなら、この喜ばしい使命を果たし、現実のものとすることができるでしょう。

見過ごすことのできない一つのシン ボルについて熟考することにしま しょう。教会の内陣にある祭壇につ いてです。祭壇は、典礼のためだけ に使用される場所として、非常に意 味深い特別な儀式を通して聖別され ます。聖ホセマリアは、1958年の諸 聖人の祭日にビラ・テベレにある聖 使徒の聖堂の祭壇を聖別しました。 典礼を挙行するときはいつもそうで あったように、そのときもその信心 深さは顕著でした。動作や言葉の一 つひとつには主に対する細やかな心 が表れていました。主は、私たちを 愛し、今も愛し続けていることを表 すものとして、ミサ聖祭を私たちに 残して下さったからです。

教会はこの儀式を通して、私たちに次のことを思い出させるのです。

「私たちも、神に仕え、神の国を築 くために聖別され、世の人から〈離 れ〉ました。ところが、私たちは 度々、多くの人が神から〈離れ〉た がっているのを目にします。彼ら は、自由と自律の名の下に、神につ いては沈黙し、宗教を個人的な信心 に変え、公的な場で信仰を表すこと をためらいます。福音の本質とは全 く相容れないこの立場は、時に、教 会とその使命についての私たちの考 え方をも危うくしてしまいます| [xiii]とベネディクト十六世が説明さ れました。

時に多くのキリスト者の振る舞いにも垣間見られるこの考え方を追い払うよう努めましょう。それに関連したことですが、聖ホセマリアは祭壇を聖別する際に、よくこう話されていました。「あなた方と私も、祭壇と同じように油を注がれました。私

たちは、まず洗礼において、続いて 堅信において香油で塗油されまし た。そして、病者の塗油、つまり再 び聖なる油を受ける時を喜びのうち に待ち望んでいます (…)。ですか ら私たちは聖なる者です。それゆえ 私たちの体は神に捧げられたものと してあるべきです。愚かなことをす ることなく、節度を持って体をいた わり、神に仕えるのにふさわしく装 わなければなりません。そのために は、心もよい習慣、つまり徳で飾る べきです。これがキリスト者固有の あり方です。| [xiv]

この祝日から、私たちの霊的生活に 当てはめるための結論をもっとたち さん引き出すこともできるでしょう が、それはあなた方に任せます。 かし、手紙を終わる前に、これ以外 に今月祝われる典礼上の祝日やオプス・デイにおける記念日のことを思います。まず、21 日の王であるキリストの祭日です。 イエスの聖心へのオプス・ディのを 献を更新する準備をしましょう。 れの日と交わしましまで の召し出しを受けた時に、 か東に、新たな意味を与えまめまします。 あなたの一日がままが、あなたのように、 あなたのように、 あなたのようにあるようにあるように、 を講じてますか。 はませた。

次いで、11月28日は、オプス・デイが属人区として設置された記念日でまっ。今年は、1982年と同じように、待降節第一主日に当たります。この非常に重要な一歩を真心から神に動しまっ。特に、神のしもでしまっ。特に、オプス・ジーンで強調されたように、オプス・ジーンで強調されたように、オプス・ジーンで強調されたように、オプス・ジーンで強調されたように、オプス・ジーンで強調されたように、オプス・教会の普遍的な使命に効果的に仕える道具であるよう願いましょう。

どうか、私たちの感謝が、教皇様と そのご意向のための祈りを強化する ことで表されますように。オピスト で信者は皆、信徒も司に、公 のにも教皇様に固く一致している ることを望んでいます。また、ける はないのであいために祈り続けて最 でいることをはないのく はく仕えることだけを目指すもので す。私は皆さんと固く一致している と感じています。そして、皆さんの 日々の支えを必要としています。

さらに、創立者がリアルプの森でバラの花を見つけたことを記念する月であることも思い出します。聖マリアに、天国にたどり着くまで皆が踏破すべき道を歩き通すを与えくださるよう願います。また、今月13日に助祭に叙階される属人区の信徒たちのためにも祈りましょう。

心からの愛情を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2010年11月1日

[i] 黙示録 7,9-11

[ii] 聖ホセマリア、1974年4月9日、 家族的な集いでのメモ [iii] 聖ホセマリア、1972年6月4日、 説教「教会に忠誠を尽くす」(邦訳 『教会を愛する』34ページ)

[iv] 第二バチカン公会議『教会憲章』6

[v] 1ペトロ2, 4-5

[vi] 1テモテ3,15参照

[vii] 聖ホセマリア、1972年6月4日、 説教「教会に忠誠を尽くす」(邦訳 『教会を愛する』34ページ)

[viii] 1コリント3,10-13

[ix] 同上16

[x] ローマミサ典書、教会献堂の第1 叙唱(仮訳)

[xi] ベネディクト十六世、2008年7 月18日、演説

[xii] マタイ25, 20-23参照

[xiii] ベネディクト十六世、2008年7 月19日、祭壇聖別式での説教

[xiv] 聖ホセマリア、1974年10月27 日、家族的な集いでのメモ

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2010nian-11yue/ (2025/12/13)